

01

初級簿記

【第11回】決算整理仕訳

Copyright (C) YAMANE Yoichi All right reserved

■ 決算整理

期中に正しく記入を行ったけれど、決算にあたって（利益計算をするにあたって）修正が必要な事柄

- 現金過不足の整理
- 売上原価の計算
- 貸倒引当金の設定
- 有価証券の評価替え
- 固定資産の減価償却
- 消耗品の整理
- 費用・収益の見越し・繰延べ

現金過不足の整理

売上原価の計算

※貸倒れの発生

貸倒引当金の設定

現金過不足の整理

04

■ 現金過不足の整理

決算時に不明のままの現金過不足は、**雑損勘定**もしくは**雑益勘定**で処理する。

(1)本日、決算を迎えたが、現金過不足 ¥ 300 (借方残) について依然として原因が判明しないままであった。

(借) 雑	損	300	(貸) 現金過不足	300
-------	---	-----	-----------	-----

(2)本日、決算を迎えたが、現金過不足 ¥ 300 (借方残) について依然として原因が判明しないままであった。

(借) 現金過不足	300	(貸) 雑	益	300
-----------	-----	-------	---	-----

現金過不足の整理

05

■現金過不足の整理（まとめ）

現金過不足が借方残（不足）の場合

(借) 雑	損	××	(貸) 現金過不足	××
-------	---	----	-----------	----

現金過不足が貸方残（過剰）の場合

(借) 現金過不足	××	(貸) 雑	益	××
-----------	----	-------	---	----

売上原価の計算

06

■ 売上原価の計算

決算時に売上原価の算定を仕入勘定（または売上原価勘定）で行う。

(1)決算日となり、商品に関して決算整理仕訳を行う。なお、当期商品仕入高は¥1,000、期首商品棚卸高は¥300、期末商品棚卸高は¥200であった。売上原価は仕入勘定で算定する。

(借) 仕	入	300 ¹⁾	(貸) 繰	越	商	品	300 ¹⁾
(借) 繰	越	商	品	200 ²⁾	(貸) 仕	入	200 ²⁾

1)は期首商品在高

2)は期末商品在高

売上原価の計算

07

■売上原価の計算（まとめ）

(借) 仕 入 $\times \times^1$ (貸) 繰越商品 $\times \times^1$
(借) 繰越商品 $\times \times^2$ (貸) 仕 入 $\times \times^2$

1)は期首商品在高(試算表 繰越商品の金額)

2)は期末商品在高(決算整理時の棚卸高)

貸倒れの発生

08

■貸倒れの発生

貸倒れとは掛代金が回収できなくなることであり、**貸倒損失勘定**で処理する。

(1) 売掛金¥10,000が回収不能となった。

(借) 貸 倒 損 失 10,000 (貸) 売 掛 金 10,000

まとめ

(借) 貸 倒 損 失 ×× (貸) 売 掛 金 ××

貸倒引当金の設定

09

■ 貸倒引当金の設定

(1) 決算にあたり売掛金 ¥ 10,000 に対して 3% の貸倒引当金を設定する。なお、貸倒引当金に残高は ¥ 100 である。

(借) 貸倒引当金繰入 200 (貸) 貸 倒 引 当 金 200

× × は (売掛金 + 受取手形) × X% - 貸倒引当金残高

まとめ

(借) 貸倒引当金繰入 × × (貸) 貸 倒 引 当 金 × ×

有価証券の評価替え

Copyright (C) YAMANE Yoichi
All right reserved

有価証券の評価替え

11

■ 売買目的有価証券の評価

(1) 株式10株(取得価額@¥50,000)が1株40,000に値下がりしているので、評価損を計上した。

(借) 有価証券評価損 100,000 (貸) 売買目的有価証券 100,000

(2) 株式10株(取得価額@¥50,000)が1株60,000に値上がりしているので、評価益を計上した。

(借) 売買目的有価証券 100,000 (貸) 有価証券評価益 100,000

有価証券の評価替え

12

■ 売買目的有価証券の評価

まとめ

(借) 有価証券評価損 ×× (貸) 売買目的有価証券 ××

(借) 売買目的有価証券 ×× (貸) 有価証券評価益 ××

××は時価－取得価額で＋ならば益、－ならば損

固定資産の減価償却

※固定資産の売却

固定資産の減価償却

14

減価償却とは、一方では目に見えない固定資産の価値減少（減価）を**減価償却費勘定**で計上し、他方では再調達のための資金を**減価償却累計額勘定**で積み立てることである。

■ 減価償却費の計算方法

$$\star \text{定額法} \quad \text{減価償却費（年額）} = \frac{\text{取得価格} - \text{残存価額}}{\text{耐用年数}}$$

取得価額¥500,000、耐用年数10年の備品を減価償却した。
なお、残存価額は取得価額の10%である。

$$\begin{aligned} & \text{減価償却額の計算：減価償却額（年間）} \\ & = (500,000 - 50,000) \div 10 \\ & = 45,000 \end{aligned}$$

固定資産の減価償却

15

■減価償却費の計上

1) **直接法**：減価償却額を固定資産の金額から直接に減額していく仕訳

取得価額¥500,000、残存価額は取得価額の10%、耐用年数10年の備品を減価償却した。

(借) 減 価 償 却 費 45,000 (貸) 備 品 45,000

2) **間接法**：減価償却額を減価償却累計額に積み立てていく仕訳

取得価額¥500,000、残存価額は取得価額の10%、耐用年数10年の備品を減価償却した。

(借) ~~減 価 償 却 費~~ 45,000 (貸) 減価償却累計額 45,000

固定資産の減価償却

16

まとめ

直接法：

(借) 減 価 償 却 費 ×× (貸) 固 定 資 産 項 目 ××

××は(取得価額－残存価額)÷耐用年数

間接法：

(借) 減 価 償 却 費 ×× (貸) 減価償却累計額 ××

××は(取得価額－残存価額)÷耐用年数

固定資産の売却

17

取得価額から減価償却累計額を引いた価額と売却額を比較して

(取得価額－減価償却累計額) < 売却価額
ならば、**固定資産売却益**の計上

(取得価額－減価償却累計額) > 売却価額
ならば、**固定資産売却損**の計上

固定資産の売却

18

1)備品（取得価額¥100,000、残存価額取得価額の10%、耐用年数5年、取得後2年経過）を現金¥70,000で売却した。

直接法：

(借) 現	金 70,000	(貸) 備	品 64,000
		固定資産売却益	6,000

間接法：

(借) 現	金 70,000	(貸) 備	品 100,000
	減価償却累計額 36,000	固定資産売却益	6,000

固定資産の売却

19

2)備品（取得価額¥100,000、残存価額取得価額の10%、耐用年数5年、取得後2年経過）を現金¥60,000で売却した。

直接法：

(借) 現	金 60,000	(貸) 備	品 64,000
	固定資産売却損 4,000		

間接法：

(借) 現	金 60,000	(貸) 備	品 100,000
	減価償却累計額 36,000		
	固定資産売却損 4,000		

固定資産の売却

20

まとめ

直接法：

帳簿価額 < 売却価額

(借) ○	○	○	××	(貸) 固 定 資 産 名	××
				(貸) 固定資産売却益	××

直接法：

帳簿価額 > 売却価額

(借) ○	○	○	××	(貸) 固 定 資 産 名	××
(借) 固定資産売却損			××		

固定資産の売却

21

まとめ

間接法：

帳簿価額 < 売却価額

(借) ○	○	○	××	(貸) 固 定 資 産 名	××
(借) 減価償却累計額			××	(貸) 固定資産売却益	××

間接法：

帳簿価額 > 売却価額

(借) ○	○	○	××	(貸) 固 定 資 産 名	××
(借) 減価償却累計額			××		
(借) 固定資産売却損			××		

消耗品の整理 費用・収益の見越し・ 繰延べ

消耗品の処理

23

(1)消耗品を 現金¥500で購入した。(購入時資産処理)

(借) 消 耗 品 500 (貸) 現 金 500

(2)上記の消耗品について、決算日における未使用高は¥100であった。(購入時資産処理)

(借) 消 耗 品 費 400 (貸) 消 耗 品 400

消耗品の処理

24

まとめ

購入時資産で処理したとき：

(借) 消 耗 品 ×× (貸) ○ ○ ○ ××

決算時：

(借) 消 耗 品 費 ×× (貸) 消 耗 品 ××

※購入時には消耗品を使用済として処理し、
決算時には未使用分を資産処理する。

消耗品の処理

25

(1)消耗品を 現金¥500で購入した。(購入時費用処理)

(借) 消 耗 品 費 500 (貸) 現 金 500

(2)上記の消耗品について、決算日における未使用高は¥100であった。(購入時費用処理)

(借) 消 耗 品 100 (貸) 消 耗 品 費 100

消耗品の処理

26

まとめ

購入時費用で処理したとき：

(借) 消 耗 品 費 ×× (貸) ○ ○ ○ ××

決算時：

(借) 消 耗 品 ×× (貸) 消 耗 品 費 ××

※購入時には消耗品を使用済として処理し、
決算時には未使用分を資産処理する。

費用の繰り延べと見越し 27

■費用の繰延べ

(1)決算日（3月31日）にあたり、12月1日に1年分¥1,200
支払った保険料のうち、未経過分を繰り延べる。

(借) 前 払 保 険 料 800 (貸) 支 払 保 険 料 800

■費用の見越し

(2)6月1日に建物の賃借契約（期間1年、月額¥100）を結び、
家賃は契約終了時に全額支払うことにしていたが、決算日
（3月31日）にあたり、経過分を見越し計上する。

(借) 支 払 家 賃 1,000 (貸) 未 払 家 賃 1,000

費用の繰り延べと見越し 28

■費用の繰延べ：まとめ

(未経過分の費用を前払いとして次期に繰り延べる)

(借) 前 払 ○ ○ ×× (貸) 支 払 ○ ○ ××

※ ○○は費用名

※前払費用は資産

■費用の見越し：まとめ

(未払いの費用を今期の費用として計上する)

(借) 支 払 ○ ○ ×× (貸) 未 払 ○ ○ ××

※ ○○は費用名

※見越費用は負債

収益の繰り延べ見越し

29

■収益の繰延べ

(1)決算日（3月31日）にあたり、12月1日に1年分¥1,200受取った手数料のうち、未経過分を繰り延べる。

(借) 受 取 手 数 料 800 (貸) 前 受 手 数 料 800

■収益の見越し

(2)6月1日に建物の賃借契約（期間1年、月額¥100）を結び、家賃は契約終了時に全額受け取ることにしていたが、決算日（3月31日）にあたり、経過分を見越し計上する。

(借) 未 収 家 賃 1,000 (貸) 受 取 家 賃 1,000

収益の繰り延べ見越し

30

■収益の繰延べ：まとめ

(未経過分の収益を前受けとして次期に繰り延べる)

(借) 受 取 ○ ○ ×× (貸) 前 受 ○ ○ ××

※ ○○は収益名

※前受収益は負債

■収益の見越し：まとめ

(未収の収益を今期の収益として計上する)

(借) 未 収 ○ ○ ×× (貸) 受 取 ○ ○ ××

※ ○○は収益名

※未収収益は資産